文化・芸術

「婦人像」

1936年2月、油彩、板に紙
33・0センチ×24・0センチ（個人蔵）

松本竣介（1912～48年）

松本竣介結婚当時24歳の時の一点です。初期作品の特徴である骨太の輪郭線がみられます。ルオーやモディリアニからの影響が指摘されてきました。竣介は、たとえば次のような文章を記しています。

「―モヂリアニの作品は、長いこと私を翻弄（ほんろう）した。実際困つた程だつた」「―モヂリアニが好きになつたのも理由の一つは、品の線の秘密にあつた」「彼程、生きてゐる歓喜と悲哀を、あのやうに絵画に託したものはなかつた」

竣介には、その生涯をかけて精神を絵画に表現しようとしたモディリアニの生き方に深い共鳴があったといえましょう。本作には、モディリアニのように、画面に人物の内面を静かに浮かび上がらせようとする意識がにじみます。（小此木）

大川美術館企画展「リニューアル記念展　エコール・ド・パリの画家たちと松本竣介」から

〈名画の扉〉